



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



教区正常化献金の来年度での廃止を決定

教区経済問題評議会

教区経済問題評議会が昨年十二月九日(日)午後、教区本部で開催され、二〇一三年度予算について審議した。会議ではまず会計担当の寝占敦之神父から二〇一二年度の「教区正常化献金」への感謝が述べられたが、それでも特定預金から取り崩しをしなければならぬ教区会計の厳しい現状が報告された。

その後の話し合いでは主任司祭として働いている委員から小教区財政の厳しい現状と「早期に教区正常化献金を廃止するよう」要望が出された。この要望に関してはある小教区からの事例が示された。それは小教区の維持費未納者に手紙を送り協力を求めるとともにすでに維持費を納入している人にも自由意思を前提に、その増額を求めたところ維持費収入が増えたというものであった。

なくなる厳しい現状。また同時に小教区会計の逼迫した状況を見ると信者に維持費納入の増額と未納者にその納入を呼びかけることが各主任司祭、教区本部会計担当司祭に求められることとなる。

- ① 正常化献金を廃止
- ② 移行が難しい小教区には分担金を願う
- ③ 二〇一三年度中に教会維持費納入等の徹底した呼びかけを行う
- ④ 司祭集会の度ごとに問題点の共通認識を図る

れ、委員たちから了承された。教区会計からの要望で評議委員会の賛成を得たのは「神学生の恩人を募る」であった。これは神学生養成費の減少から教区の宝である神学生に不自由な思いをさせている現状を打開したいという思いからの提案で、特定の神学生のためにでも教区の全員の神学生(現在韓国二人、日本人三人)のためにでも特別に献金してくれる人を募るというもの。教区会計担当の寝占神父は「この制度の趣旨に賛同してくれる方がいたら連絡して欲しい」と語っている。

教会を支えているのは高齢者

教会維持費納入者調査から

教会維持費納入状況について調査した教区会計部から二〇一一年度の年齢別教会維持費納入状況が報告された。このアンケートには鹿兒島教区にある二十九の小教区のうち川内教会を除く二十八の小教区から回答が得られた。それによると二〇一一年度の教会維持費納入者は千八百七十一人となっている。

以下、年代別納入者内訳。
十歳代 〇人、二十歳代 〇人、三十歳代 〇人、四十歳代 〇人、五十歳代 〇人、六十歳代 〇人、七十歳代 〇人、八十歳代 〇人、九十歳代 〇人、百歳代 〇人

十二、七十歳代 〇四百四十三人、八十歳以上 〇四百七十六人、その他 〇五五人。年齢が高くなるほど教会維持費納入者数は多く、年金で生活していると思われる七十歳代、八十歳代の信徒の納入は四十九%で約半数を占めている。またここに定年し収入も不安定だと予想される六十歳代の納入数を加えると全体の七十二・六%となり、教区の信徒の高齢化もあることながら、まさに小教区・教区を財政的に支えているのが高齢者ということが分かる。小教区会計や教区会計の

鈴木康由助祭を司祭に叙階

二月二十四日 聖心教会で



二月二十四日(日)名瀬聖心教会での叙階式で教区助祭・鈴木康由さんが司祭

司祭叙階式のお知らせ

〔叙階式〕
日 時 2月24日(日) 16時
場 所 名瀬聖心教会(奄美市名瀬幸町18-1)
司 式 郡山健次郎司教
受階者 アウグスチノ 鈴木康由助祭

〔祝賀会〕
日 時 2月24日(日) 18時30分
場 所 奄美サンプラザホテル
会 費 三千元 ※事前の申込が必要です。

の聖位にあげられることになった。

神学生を励ます会

一月五日(土)「神学生を励ます会」がザビエル教会で開かれた。

二月二十四日(日)名瀬聖心教会での叙階式で教区助祭・鈴木康由さんが司祭

の聖位にあげられることになった。

教区人事

- ▼サントス・ホセ・リザール神父(神言会・在留外国人担当)は現職のまま四月一日付、加世田小教区主任司祭及び加世田聖母幼稚園園長
- ▼ヨハネ・ファン・ティエ・ドゥン神父(加世田小教区主任司祭)はベトナム・ニャチャン教区へ
- ▼丸野六雄神父(ザビエル教会協力司祭)は二月十三日付、玉里小教区主任司祭

川口茂終身助祭(加世田教会)は三月一日付、長崎教会管区東日本大震災復興支援の岩手県大槌ベース長として赴任

ミサ後は教会ホールで茶話会があり、この日出席していた韓国人神学生や司祭叙階式を間近に控えた三人の助祭、そしてイエスのカリタス修道女会の志願者が紹介された。

窓のザビエル書院



山浦玄嗣著
「なぜ」と問わない
日キ販 八百円+税

語る体神う
もあもそ
ケで自か出
者も中つけ
が3・11を
訳聖書訳し
著者が3・11
験し、その
の言葉を見
とした生き
方としての

文芸

短歌

大笠利 稲 牛憲

袖着る機会はみずからつくるもの聖夜のミサにでて面映ゆし

生きてみてやっぱり大変お互いにもそれなりの幸せ作り

呼び声に耳傾けしきよし夜かよわきみ手に十字のしるし

歳晩の母の姿をおもひ来し墓のうらら陽にせきれい遊ぶ

自らを省みて坐せる聖堂に百合の吐く息つよく浮遊す

俳句

鹿兒島純心 川上 和

初日の出信仰の光島に出ず

出水市 沖 弘子

クリスマス初聖体の子等笑みて

愛光園 春山マリ子

冷えきった心は何故か寒い冬

純心学園 山頭 信子

冬の朝ルルド掃く音静かなり

書き初めや「愛は寛容」信仰年

柿落ち葉聖書に挿み聖夜ミサ

霧島市 政 ノブ子

初暦教皇様の笑顔かな

鹿兒島市 徳永ノブ子

主の平和交わす初ミサ皆笑顔

シスターの詩に和むや初暦

四旬節に思う

小宿小教区主任司祭 G・ティエン



二月十三日（灰の水曜日）から四旬節に入ります。四旬節について考えてみましょう

私たちは自分の十字架を背負わなければ、復活の栄光にあずかることはできません。（二テモテ2・11）

四旬節に私たちはイエス様の受難に、沈黙のうちに招かれています。それはゴルゴタの丘でのイエス様の孤独の痛み、裸の恥、そして皆のあざけりを受けたことを私たちが心に深く刻むようにということなのです

イエス様は神の御一人子でありながら、自ら、苦しみを受けて、私たちへの限りない愛を示されました。四旬節は私たちの心の準備を手伝ってくれます。四

そのようなことが可能でしょうか。同じ過ちを繰り返してしまふのが人間です。原罪により墮落的傾向を持つ人間が心を造り変えることは不可能なことなのかも

スーさん（鈴木助祭）のやさしいみことば

心を通じ直す

変えることではなく、視線を自分に向け直すことを求めておられるのです。このことを踏まれば、罪を犯さないことよりも罪に気が付くことがとても大切である

悟ったのです。ペトロは三年間もイエス様に従ってきたにもかかわらず、最後の瞬間での裏切りによって、イエス様との関係をすべて失ってしまいました。イエス様と無関係な状態になつてしまいました。鶏が三度鳴く声を聞き、自分をみつめるイエス様の目に気づいて、ペトロは激しく泣いて、イエス様のことを思い出して後悔しました。

二千年前にペトロがイエス様に見つめられて回心したように、私たちもイエス様のみに深く考えて、これからの出会いをもっと深く

り、道行く多くの人たちが足を止めて眺めるなど町でも評判になりました。

馬小屋の屋根は防水のために塩ビを敷き、その上を稲藁で覆いました。電飾も施し、御子様のご像はベトナムから取り寄せたもので、身の丈四十五センチ。聖堂にもほぼ同じものを置きました。前、加世田聖母幼稚園の子どもたちが代わる代わる手を合わせ祈る姿はとても愛らしいものでした。（報告・川口茂）

お望みのように生きて行くようにイエス様に約束しましょう。

もし私たちが日々、自分の十字架を担って、十字架につけられて息をひきとられた主イエスに従って行くことができなければ、神の国に入る事ができません。

好評だった馬小屋 加世田教会

昨年（2012年）の待降節に加世田教会（ドゥン神父主任司祭）に設置された馬小屋は、家族連れや子どもたちなど多くの方がわざわざ足を運んで来た



は二の次になつてしまふものなのです。このような私たちの視線を神様に向きかえることこそが回心なのです。人間の弱さをご存知である神様は、私たちに心を造り

ると言えるのではないのでしょうか。だからこそ赦しの秘蹟は何度でも受けられるのです。もし罪を犯してしまふ恐怖に縛られるのであれば、それはキリスト者の生き方ではありません。

では、回心は何のためにするのでしょうか。パウロは「神の憐れみがあるあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか」と私たちに問いかけています（ロマ2・4）。

神様は私たちに視線を自分に向けかえるように求めて

ています。回心はギリシア語でメタノイアと言います。この神様の求めに私たちは応える必要があるのです。だからこそこのメタノイアを人間の応答として反対から読めば「アイノタメ」つまり「愛のため」となります。実に、回心とは神様の愛に答えるために必要なことなのです。神様は私たちをこのうえなく愛しておられるのです。私たちの愛する罪にもまして、神様の愛に答えることが私たちが信仰生活の基盤なのです。

みんなで入来教会を訪問 谷山教会が十年ぶりの一日遠足

谷山教会では十二月二日（日）に十年ぶりの一日遠足を実施しました。行き先は入来教会と蘭牟田池でしたが、実はこの企画、ミサ後の世間話から「どこかにみんなで行きたいね」ということになり、有志が企画したものでした。

参加したのは谷山教会だけでなく、鴨池教会の方、そして未洗の方も合わせて三十七人。この日は雨模様でしたが、バスの中では信徒会長の大野さんから出され

るクイズや四文字熟語の問題に興じ、頭の体操もして、あつという間の一時間で入来教会に到着しました。

教会では御堂前にハンマ神父様が出迎えに立っておられ、みんなで再会を喜び合いました。そして神父様も谷山教会の大勢の信徒に会って感激のあまり言葉が出なかつたとのことでした。その後のミサでは入来教会の歴史などが語られ、ここが洗礼者聖ヨハネにささげられた教会であること

を教えてもらいました。そして神父様は「洗礼者聖ヨハネは、待降節に最もふさわしい聖人。悔い改めなさい」と言っています。と話されました。ミサ後は教会の集会所で昼食を取りました。昼食の間は終原さん（元鹿兒島大学法学部教授）の講話（信仰の門）もあり、最後には法被姿になった人たちが混ざって「おはら節」「渋谷踊り」を踊って盛り上がりしました。

入来教会にお別れしてか

らば蘭牟田池に行き、観光ホテルでコーヒを飲んだり、お土産を買ったり、温泉に入ったりとそれぞれにくつろぐことができました。そしてこれからもこんな遠足をしましょうとの多くの声が上がりました。

「信仰年」にあたり、とにかく教会につながっていたい。そのためには信徒間の交流を深めよう」と企画された巡礼と親睦の遠足は意義深いものだったと思えます。

（谷山教会レポーター）

四旬節になると、イエス様が人々に悔い改めを求めたように、回心という言葉がよく使われるようになり

ます。何度も耳にしている言葉ですが、その本質が曖昧になっていくことが多いようです。今この時期にこの「回心」という言葉から、私たちに求められることを考えてみましょう。

心を通じ直す

「回心」とは心を神様に向きかえることを意味します。人間は通常、この世的なこと目に向けてばかりいることから、神様のこと

しれません。これに対して「回心」とは心を神様に向きかえることを意味します。人間は通常、この世的なこと目に向けてばかりいることから、神様のこと

信仰年を意義深く過ごそう

巡回教会が五つある小宿小教区が合同ミサ

昨年の十一月二十五日(王であるキリストの祭日)は、小宿教会(ティエン神父主任司祭)の記念日でもありました。そこで小宿教会では小教区全



体で、お祝いの合同ミサをささげました。ここで小宿小教区を紹介させて頂きます。私たちの小教区は、奄美市名瀬小宿町の小宿教会とその巡回になる知名瀬教会、根瀬部教会(以上、奄美市)と大和村の大和浜教会、大瀬教会、戸田教会の六つで構成されており、小宿教会から戸田教会までは車で約一時間の時間を要します。また信徒の皆さんは高齢者が多く、一堂に介してミサにあずかる機会を多く持つことはできないというのが現状です。

神父様のミサに合同であずかることができませんでした。実はこの合同のミサは、ティエン神父様が「信仰年」を意義深いものにし、信徒の信仰生活を深めるために計画したもので、年に四回実施することになっており、その第一回目だったので、そしてミサの後は、場

加世田聖母創立五十周年記念式典

長崎純心聖母会 初 田 陽 子

一九六三年、宗教法人カトリック贖罪主修道会が設置許可を受け誕生した加世田聖母幼稚園は、初代園長にアロイシユ・マイエル師

司教執務室だより

YOUCAT

YOUCAT。「若者のためのカトリック教会のカテキズム」の略称でユーキャットと呼ばれている。二〇一一年のワールドユースデー・マドリッド大会で参加者たちに配布されたもので、内容に感動した若者たちが、帰国後翻訳を始めた。ついに、そんな労作が実り、昨年暮れ、A4版、一〇五頁の第一部一刷目が届けられた。校正のためだ。

もともと、ドイツ語で書かれたものが、日本語がないことを嘆くのではなく、また、誰か専門家に依頼するというのもなく、「ならば」と自ら翻訳に立ちあがった心意気がいい。しかも、できるだけ参加者全員が翻訳に参加したほうがいいというので、日本全国津々浦々、各地に帰った参加者に呼びかけながら、一節ずつを手分けしての、まさに手作業が一年以上続いた。もちろん鹿児島からの参加者にも声がかかったはずだ。こうして、

日本語にしてみんなで読みたいという熱い思いがこの時を迎えた。

若者たちによる、若者たちのためのYOUCAT。信仰年にふさわしい若者から若者への贈り物だ。そういえば、翻訳者欄には翻訳にあたった全員の名前が記されるという。それだけでも数頁になるかもしれない。全国各地で、参加者をはじめ多くの若者たちが、お互いの名前に歓喜しながら、自らの手で日本語にしたYOUCATを手に入れている姿がもうすぐ現実のものになろうとしている。

ともあれ、若者が若者のためにカテケの教会史上初めてというのには、日本に画期的なことであり、日本の教会の将来にとって明るい展望を開く慶事といえる。また、あと第二部の原稿も届くことになっていく。完成したら、盛大に出版祝賀会を司教団で祝つてあげる価値がある、と思うのだが。一日も早い出版が待たれる。



所を信徒会館「ルーシン館」に移し、昼食をとってから分ち合いを行いました。分ち合いでは信徒がそれぞれに自分の信仰のあり方、信仰に対する考え、また主キリストとどのように向き合い、どのように祈りをささげるかなどを最初は恥ずかしさからマイクを持ちたがらずにいました。が、聖霊の恵みを頂いたか、次第に堂々と信仰体験発表して下さるようになりまし。そしてそれぞれが自分しにしかできない信仰告白を

し、小宿小教区が信仰共同体として支え合って行けるような中身の濃い分ち合いとなりました。信仰年が終わるまで、それぞれの信仰をしっかりと見つめ、私たちの信仰生活が神様とのよい関係を保つて行けるように、小宿小教区が信仰共同体として一致し、支え合うことの大切さをみんなで共有できた一日となりました。(報告・小宿教会婦人会長 久保正子)

が就任してから、今年二〇一三年に創立五十周年を迎える。その記念行事として、昨年は一学期から全園児八十二人による園舎の貼り絵共同制作、二歳児クラス新築(七月)他、設備など環境整備を行った。そして運動会を終えた十一月には記念バザーを開催し、その後歴代園長、開園当時幼児教育に携わったイエスのカリタス修道会の写真及び寄稿、関係者による祝詞の協力を受け記念誌を編集することができた。そして昨年十二月二日

(日)に南さつま市民会館で記念式典を挙行了。第一部記念クリスマス会では、全園児によるオープニング、遊戯、聖劇を披露、引き続き十二時三十分まで短時間の式典を行った。第二部「記念式典」には、本坊輝雄南さつま市長、郡山健次郎司教、田原章聖マリア学園理事長、二代目園長キッペス神父、三代目

4人で345歳の洗礼 徳之島の岡前教会

昨年十二月二十五日(火)のクリスマスは岡前教会にとつて大きな喜びの日となりました。それは四人の男性と一人の赤ちゃんと一人の赤子があつたからです。

この度の洗礼式のユニークな点は宮山隆秀さんと代父の終身助祭・池上聖行さんが共に九十歳の同級生だったこと。また他の受洗者の竹田昭一郎さんと米田光吉さんと岡村惟秀さんは八十五歳の同級生というあまりない取り合わせだからです。四人とも毎週行われる洗礼の勉強会にはよ

く出席されました。神父様は復活祭の洗礼を考えていたようですが、この方々が入院されたり、体調を崩したりしてこの日の洗礼になりました。もう一人の赤ちゃんは竹田昭一郎さんの孫、百笑(ももえ)ちゃんです。竹田さん一家にとつては二重の喜びに包まれました。洗礼式の後で集まった四十人程の信者さんは竹田さん一家の手作りの赤飯やおでんでお祝いし、楽しいひと時を過ごしました。皆さん、洗礼後の勉強会と主日のミサに少し緊張と期待に胸膨らませて出席されています。これから受洗者が益々増えますように祈った喜びの日となりました。(徳之島通信員・浜田スミ子)

▼キリスト教一致祈祷集会
キリスト教一致祈祷週間中の一月二十日(日)日本聖公会鹿児島復活教会(李浩平司祭)で一致祈祷集会(テーマ「神が何をわたしたちに求めておられるのか」)が開催された。祈祷会を司式した李司祭は「私たちはキリストに結ばれずにはいられないことを知りながら、自らの弱さのためにそれを証しできないでいる。何とか弱さを克服しよう」とメッセージを送った。集いの後は茶話会が開かれ、久しぶりに顔を合わせた同じキリスト教の兄弟たちの喜びに満ちあふれていた。来年の祈祷集会の会場はカトリック教会、多くの方に出席して欲しい。(報告・桃園淳一郎)

のメニューは神父をはじめ旧保護者会会長など来賓二十五人のご臨席を賜り盛大な式典となった。その中で同園の幼児教育に二十二年間携わった長崎純心聖母会に感謝状と記念品が田原理事長から、花束が郡山司教から贈られた。その後は来賓挨拶に続き、田原理事長、卒園児代表、在園児代表の挨拶があつた。卒園児を代表して挨拶した現在医師として活躍している福岩達哉さんは、聖劇で三人の博士を演

じたことがきっかけで今の自分があることを園児たちにも分かりやすく話された。イベントでは、鹿児島純心女子短期大学子ども学科による「子どもバンド」が会場に感動を与えてくれた。短時間の五十周年記念行事であつたが、地域、多くの方々の支えがあり、温かく見守られていた五十年間だったことを感謝する式典だった。

「短信」

2月19日〜3月19日
第二回 日々の生活での霊操
指導 Sr.モニカ(レデンプトル宣教修道女会)
場所 ザビエル教会会議室
時間 毎週火曜日10時〜12時
参加条件
①毎日30分以上個人的に自宅で祈ること ②原則として毎週の分ち合いの集会に出席すること
申込・問合せ ☎099(253)6658

1 高潔な信仰的人格を
持った人には害が及ぶこ
とはない

揺るがぬ信念・信仰と、
高潔な人格を持った人間
には、周囲や環境が害を
加えようとしても、害が
及ばないことがあります。
助け、救いが与えられる
からです。

皆さんにも、自分が愚
痴や自分にひどいことを
する人、自分の思うよう
に動いてくれない人のこ
とを意気込んで批判しよ
うとしていたのに、その
ことを話そうとした相手
が心の清らかな人である
と、その意気込みが消さ
れてしまうことがあるの
を経験されたことがあり
ようになります。高山上
の心を浄化し高める感化
力がありました。それで、
人々は、右近の前に出る
と人を批判することを恥
じらうようになってしま
うのです。

かかる右近の感化力、
それは右近の揺るがぬキ
リスト教信仰からもたら
された高潔な人格の力に
依っていたのです。

2 村重の信長への謀反

ここで皆さんに二つの
右近に関するエピソード
をご紹介します。一つ目は荒
木村重の主君織田信長へ
の謀反に対する右近の対
応についてのお話です。

右近の領地高槻では、
領民二万五千人のうち八
千人が信者となり、それ
と同数の領民が洗礼の準
備をしていました。その
時、突如、災難が起こった
のです。天正六年（一五七
八年）秋、織田信長の有力

な武将・摂津（大阪）の荒
木村重が信長に謀反を企て
るといふ事件です。

謀反の理由は、村重が
「敵方の本願寺と通じてい
るといふ根も葉もない噂を
信長が信じて、自分（村重）
を誅罰するかもしれない」と
疑心暗鬼に陥ったことに
端を発しています。

こういうことは私たちに
ないといえませんが、上司
である主君信長との信頼関
係が十分ではなかったこと
から、村重の謀反はもた
らされました。「誅罰され
るなら、その前に手を打
う」、そう思っただけで話
し合っただけで信長と話
さずに、村重は謀反を起し
たのです。

右近の領地高槻はこの

キリシタンの歴史⑩ 高山右近（中）

荒木村重の謀反における

右近の葛藤と解決―情と信仰的決断の間

溝辺教会主任司祭

坂本 進

るのは、相手の中に善と愛
の源である神が宿り導いて
おられることを確信してい
るからこそできることなの
ではないでしょうか。

3 村重謀反の成り行き
と右近の身の処し方

この村重の謀反に 高槻
領主であった右近は反対し
ましたが、隠居していた父
のダリオ飛騨守は、直接の
上司・主君である村重を支
持したのでした。それは村重
に人質として娘と右近の子
供たちを差し出していたか
らでもありました。娘と孫
の生命を救うため、及び
上司への忠節を尽くすため
の信仰的決断でもありまし
た。他方、信長は、右近に

4 私たちの模範・右近

白衣の姿、ただ一人の身
で右近は信長の前に出まし
た。信長はこの右近の決意
に感動し無血で高槻城を開
城させ、次いで村重の有岡
城をも落とさせたのです。
しかし、主君である村重は、
城を見捨てて単身逃亡し、
後、秀吉のお伽衆として生
命をなげました。

時、摂津全体を治める村重
の支配下にありました。右
近は上司を二人持っていた
ことになりました。信長と村
重です。しかし、右近は、
村重の信長に対する謀反の
気持ちには、村重の疑心暗鬼
信長とのコミュニケーション
不足によるものであること
を看破し「早まっただけ
けなない」と繰り返し忠告し
たのです。

「もし裏切るなら、キリシ
タン宣教師神父たちと信者
たちを皆殺しにする」と言
いました。

村重は、右近の影響によ
りキリシタンの教えに好意
を示していました。人を
信じることに、信頼関係はど
のようにして築くことがで
きるのかについての信仰的
確信を得るまでにはまだ至
っていませんでした。人を
信じ、信頼することができ

「もし裏切るなら、キリシ
タン宣教師神父たちと信者
たちを皆殺しにする」と言
いました。

村重は、右近が差し出し
ていた人質を殺さなかった
ので人質は無事救出され、
また父・ダリオは捕えられ
ましたが、投獄後、右近の
功勞によって信長の赦しを



高山右近
(大阪カテドラル主要聖像の部分)

+KABAYAN SEKSIYON+

Pambungad sa "Taon ng Pananampalataya"
Isa sa mga nakikita ng Inang Simbahan tungkol sa paghihina at panganib ng pananampalataya ng Kristiyanong Katoliko ay ang masamang epekto ng makabagong teknolohiya sa buhay ng tao. Na nagiging sanhi ng paghina at pagtalikod sa tunay na pananampalataya sa Diyos na Buhay. Ang tatlong bagay na nagiging hadlang sa pag-unlad ng pananampalataya ng simbahan ay ang mga sumusunod: di-kristiyanisasyon; sekularisasyon; at krisis ng pananampalataya.

Di-Kristiyanisasyon ang ibig sabihin ay bininyagan nga ang isang tao bilang kristiyanong, subalit hindi ginagampanan at isinasabuhay ang turo ng simbahan. Unti-unting lumalayo sa simbahan. Sekularisasyon, ang ibig sabihin dahil nga ang isang binyag na kristiyanong ay lumalayo na sa simbahan, ang taong ito ay naapektuhan ng mga bagay na material. Mas pinipili ng taong ito ang mga material na bagay na akala ng tao ay nandodoon ang kanyang kaganapan ng kaligayang materyal. Krisis ng pananampalataya, ang ibig sabihin, dahil lubos na materyal na lang ang hinahanap ng tao sa mundo, ang kanyang pananampalataya ay nasa panganib, nasa krisis. Mas napapalayo ang tao sa tunay na pananampalataya sa Diyos na buhay. Kaya para muling maibalik ang tunay na pananampalataya sa Diyos ng mga tao, ang Inang Simbahan, sa pangunguna ng ating Papa Benedicto XVI, ay ipinahayag niya noong Oktubre 16, 2011 na ipagdiriwang ng buong Simbahan ang "Taon ng Pananampalataya." Magsisimula ito sa Oktubre 11, 2012 (ika-50 taon ng pagbubukas ng Ikalawang Konsilyo Vaticano) hanggang Nobyembre 24, 2013 (Dakilang Kapistahan ng Kristong Hari).

Inilarawan ng Santo Papa ang layon ng dakilang taong ito: ito ay "para magbigay ng panibagong sigla sa misyon ng buong Simbahan at upang gabayan ang tao mula sa pagkasadlak niya sa ilang, patungo sa pook ng buhay, pakikipagkaibigan kay Kristo na nagkakaloob sa atin ng buhay na ganap." Idinugtong ni Papa Benedicto XVI na ang taong ito ay magiging "isang panahon ng biyaya at pagtatalaga tungo sa ganap na pagbabalik-loob sa Diyos, upang pagtibayin ang ating pananampalataya sa kanya at ipahayag siya ng buong ligaya sa mga tao sa ating panahon."

Para sa Santo Papa, ang pagbabalik-loob na ito ay ang pagbubukas ng "pinto ng pananampalataya" (Mga Gawa 14:27). Bilang mga Katoliko, binuksan ang pinto ng pananampalataya sa ating binyag; hinahamon tayong muling buksan ito, lumakad sa loob nito, at muling tuklasin at panibaguhin ang ating ugnayan kay Kristo at sa Simbahan.

Kaya sa taon na ito hanggang sa susunod na taon, bigyan natin ng tuon ang mga turo ng ating Inang Simbahan na yan mismo ang mga itinuro ni Kristo sa kanyang mga alagad at ipinaabot din sa atin sa pamamagitan ng simbahan bilang isang Tradisyonal na turo ng Diyos, ang Katesismo sa Taon ng Pananampalataya.

Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)

会と催し (2月)

- 2日(土) 主の奉獻
- 3日(日) 年間第四主日
- 4日(月) ボツファイ神父命日(一九八八年)
- 5日(火) 日本二十六聖人殉教者
- 10日(日) レデンブートル会総会・8日
- 13日(水) 年間第五主日
- 14日(木) 灰の水曜日(大斎・小斎)
- 17日(日) ハンマ神父霊名(ヨルダン)
- 18日(月) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 19日(火) 宣教学校・教区本部・13時30分
- 22日(金) 坂本進神父のホリスティック聖書講座「ルカ福音書① 医者と患者」・ザビエル教会集会室・10時・五百円
- 24日(日) 聖美例会
- 27日(水) 聖ペトロの使徒座
- 27日(水) 鈴木康由助司祭司祭叙階式・聖心教会・16時
- 27日(水) オリイブの会・教区本部・14時
- 27日(水) 東條一浩神父命日(二〇〇一年)

祈りの意向

【フベナ】病者のため(11~19日)
【祈禱の使徒会】
一般・移住移動者の家族―移住移動者の家族、とくに母親たちが、困難の中で支えられ、寄り添う人に恵まれますように。
宣 教・平和―戦争や紛争状態のもとで暮らす人々が、平和な未来を築き上げていく道を歩めますように。
日本の教会・あかしする力―殉教者の生き方を記念することによって、すべての信仰者が、現代の日本で信仰をあかしする力を与えられますように。